

ギリシャ・レフカダ市との友好提携30周年記念モニュメント除幕式

モニュメント除幕式

レフカダ市との友好提携30周年を記念して、駐日ギリシャ大使より寄贈されるモニュメントを区立小泉八雲記念公園に設置します。

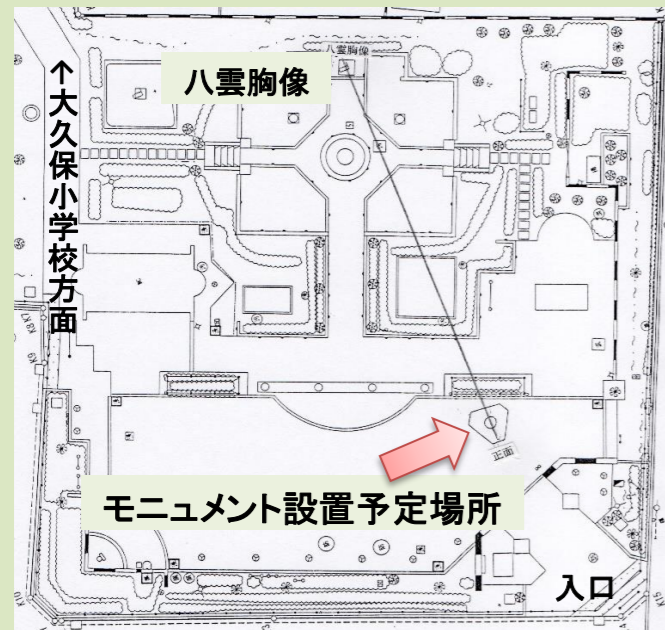
●日 時 令和元年9月21日(土曜日)
午前10時30分から(約1時間)

●場 所 区立小泉八雲記念公園

●参加者 駐日ギリシャ大使
コンスタンティン・カキュシス
レフカダ市長 ハランボス・カロス
小泉 凡氏(小泉八雲曾孫)
野田正明氏(彫刻家)
新宿区長、区議会議長ほか区関係者



区立小泉八雲記念公園平面図



ETERNITY

Resting Place of Lafcadio Hearn

(無限の未来—小泉八雲終焉の地)

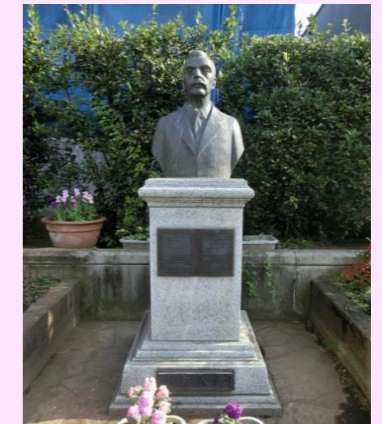
飛翔する羽には八雲の漂流の旅の象徴としての流動性、ハート型には偏見のない開かれた精神の形象を見出すことができる。八雲の世界に魅かれた彫刻家野田正明氏の作。野田氏はこれまでにアテネ、松江、レフカダにモニュメントを設置。

(写真はモニュメントのレプリカ)

新宿区とレフカダ市の歩み

● 小泉八雲を縁として、新宿区とレフカダ市は1989年(平成元年)10月12日に友好都市提携を結び、以来、子どもたちの絵画作品交流などで交流を重ね、平和な国際社会を願いつつ相互理解と友好を深めています。

● 1993年(平成5年)には、終焉の地の近くに区立小泉八雲記念公園を開園、ギリシャ政府から贈られた八雲胸像、アイルランド政府から贈られた八雲旧居を示す銘板を設置しました。



小泉八雲胸像
(区立小泉八雲記念公園内)



八雲旧居銘板

小泉八雲の生涯

● 明治時代の文人、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、1850年ギリシャのイオニア海に浮かぶ島、レフカダ島で生まれました。アイルランド、アメリカなどでの生活を経て、1890年(明治23年)に来日、日本で結婚し、家庭をもちました。

● 東京大学や早稲田大学をはじめ、いくつかの学校で教鞭をとるとともに、日本の伝統文化や昔話を世界に紹介する重要な役割を果たしました。

● 1896年(明治29年)から亡くなる1904年(明治37年)までの間、新宿で暮らし、代表作である『怪談』をのこしたこの大久保が終焉の地となりました。



小泉八雲終焉の地
(大久保1-1-17)



小泉八雲旧居跡
(富久町7-30)

